

第6期あま市まちづくり委員会提言書（素案）

協働を通して実現したいあま市の姿と
協働促進のための事業案

はじめに

あま市は、**2010**年の合併以来、「協働のまちづくり」を行政のキーワードのひとつとして掲げてきた。当市では、旧三町時代より市民や事業者による、地域のための様々な活動が展開されており、合併後も数々の活動が新たに生まれている。こうした市民活動をさらに盛り上げ、市民、事業者、行政の三者を軸とした「協働」の促進が、市の持続可能な発展を目指す上でも重要だ。

あま市まちづくり委員会は、協働を推し進める事業の一環であり、当市のまちづくりに対して、多様な立場で関わる委員による、活発な議論がなされている。第**1**期から第**5**期まで、市民活動センターの設立、協働のガイドブック、ルールブックの作成といったテーマについて意見を交わしてきた。第**6**期の主な議題は「協働を通して実現したいあま市の姿」。当市の現状、課題を整理すると同時に、今後必要と考えられる事業の案について話し合った。

この提案書では、第**6**期まちづくり委員会の議論の要点をまとめて提起する。行政だけでなく、市民や事業者も巻き込み、ここに示す案の実現に向けた動きが起こることを望む。

本提案書の構成

- 1 あま市における「協働のまちづくり」の現状と課題
- 2 「協働のまちづくり」促進のステップ
- 3 「協働のまちづくり」促進の具体案

1 あま市における「協働のまちづくり」の現状と課題

第6期まちづくり委員会では、各委員が「あま市の課題」「あま市が目指す協働のあり方」について意見を出し合い、今後の協働促進を考える前提となるキーワードがみえてきた。

1) 地域や世代を超えた市民のつながりづくり

どんな活動にも市民同士のつながりは不可欠である。けれど、町内での関わりなどの希薄化も実感される。イベントの実施、世代間交流の場づくりなど、市民同士が楽しく気軽につながりを築ける機会が要る。

2) 市民のつながりを基盤とした、常時、非常時両面の生活環境の整備

安全に、安心して、心地よく暮らせる地域づくりにおいても、協働できる関係性が原動力のひとつになる。防犯、防災、環境美化（ゴミゼロ）などの取り組みや備えを、市民が一緒にできる状態をつくらなくてはならない。

3) 次世代へまちづくりを引き継げる協働の担い手育成

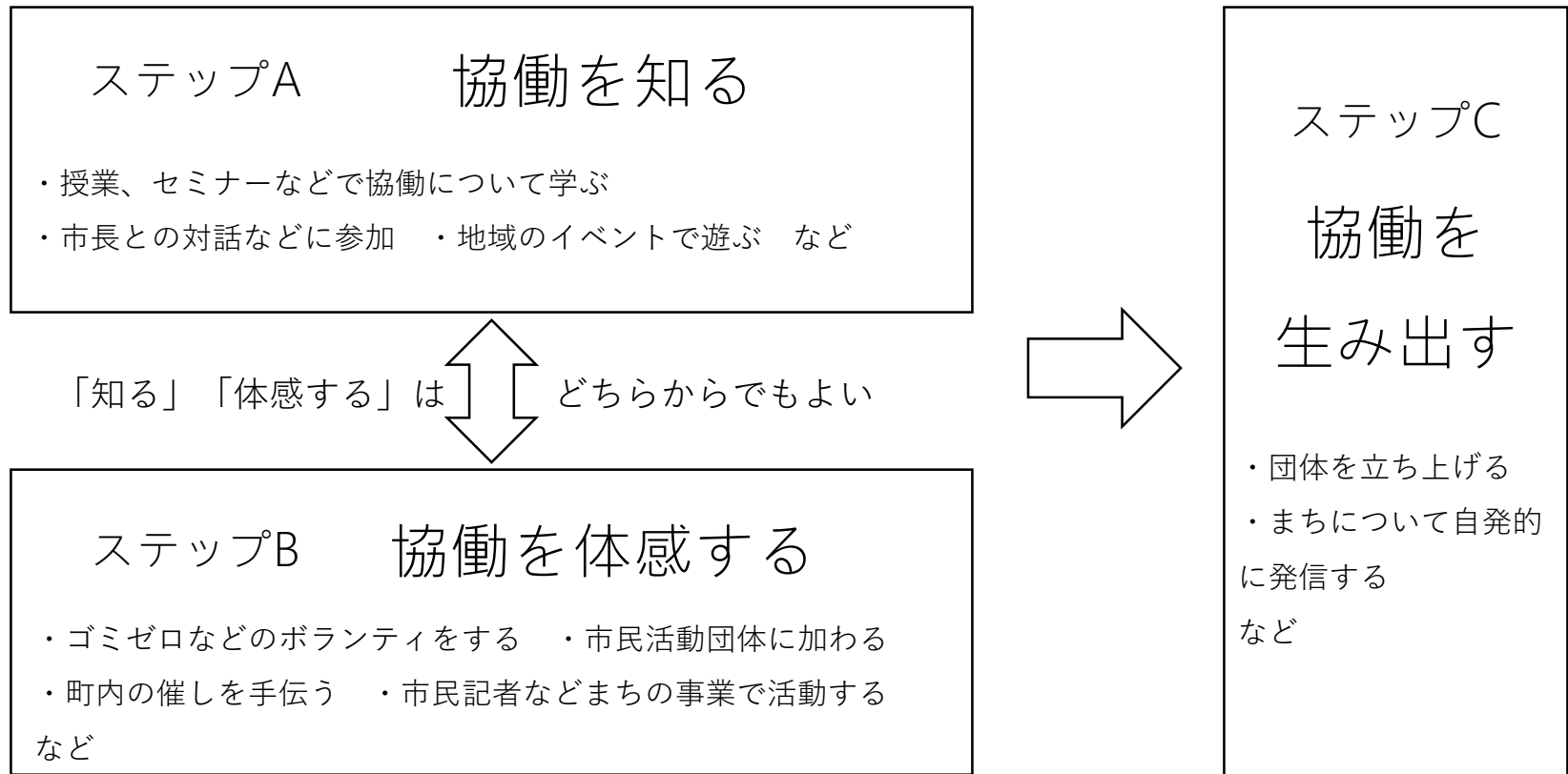
協働への理解を広め、地域に関わる人の裾野を広げていく必要がある。子どもの頃から協働の意義を実感し、成長できる、体験や啓発に機会を適切に設計することが重要。

4) 市民が誇りを持てる魅力的なまちづくり

協働のまちづくりへの積極的な参加を促すには、地域への愛着や、あま市の担い手としての誇りの醸成も重要なポイントとなる。地域の魅力発信への注力や、多様な地域参加の機会の創出が必要である。

2 「協働のまちづくり」促進のステップ

前項の現状や課題を踏まえ、「協働のまちづくり」をさらに進めるためには、下記のようなステップに基づいて、施策を展開していくべきと考える。



3 「協働のまちづくり」促進の具体案

第6期まちづくり委員会より出された「協働のまちづくり」促進のための6つの案を提起する。次ページよりそれぞれの詳細を示す。

(1) 若い世代のボランティア参加の機会づくり

協働を知る

協働を体感する

(2) 様々な人に向けた共同研修

協働を知る

協働を生み出す

(3) 世代間交流を生み出すカルチャー教室

協働を知る

協働を体感する

(4) 子どもたちと市長やまちづくり実践者との対話

協働を知る

(5) 市民によるあま市のPR事業

協働を体感する

協働を生み出す

(6) 協働を統括する行政の体制整備

協働を生み出す

(1) 若い世代のボランティア参加の機会づくり

市内の小中学生がボランティアに参加しやすくなり、参加することで達成感や学びを得られる施策を行う。

[内容]

・ボランティアスタンプカードの配布

市内の小中学生に、ボランティアに参加するとスタンプを集められるカードを配布する。スタンプを集めるだけでなく、ボランティアを通して気づきを記入する欄や、ボランティアの際に目を向けてほしいことや心構えを記した欄も設ける。

・ボランティア情報のリスト化と周知

小中学生が参加できるボランティア活動を一覧にし、学校で掲示するなど、情報が得やすくなるようにする。

※ 小中学生に限らず、大人向けにもこうした情報を市内各所で発信すると良い。

(2) 様々な人に向けた協働研修

協働についての理解を進めるための講座を、対象者ごとに内容を変えて実施。

[内容]

・子ども向け（小中学生向け？）

まちづくりやボランティアについて学ぶ時間を設ける。ただ知識を得るだけでなく、まちの理想像や自分にできることを考えるなど、協働を自分ごととして捉えられる内容に。（学校での実施が検討できれば、総合学習や道徳などの時間を使う？）

・先生向け協働研修

夏休みなどの学校教員の研修で協働に関する内容を盛り込む。学校での子どもたちへのボランティアの指導などに役立つ内容に。

※上記については、学校の負担が大きくなりすぎないように考慮した事業設計が必要。

・市民活動団体向け講座・ワークショップ

すでに活動している団体向けに、協働の考え方だけでなく、ボランティア受け入れの心構えやノウハウなどをアドバイス、あるいはワークショップで意見交換する内容に。

・保護者向けボランティア講座

ボランティアが子どもの成長にどうつながるかなど、保護者の理解を深める。親子でのボランティア参加も促す。

(3) 世代間交流を生み出すカルチャー教室

「全員が親戚になるまちづくり」を目指して。高齢者を中心に、市民がそれぞれの強みや興味関心を活かしたカルチャー教室を地域で運営する。

[内容]

- ・ 現役をリタイアした世代の方に、いろいろなことを教えてもらえる場をつくる。
(将棋、料理、学校の勉強など?)
- ・ 子どもたちがそこで学ぶことで、世代間交流も生まれる。
- ・ 市民が主体となって運営し、講師育成や開催場所の確保などで行政の協力を得る。

(4) 子どもたちと市長やまちづくり実践者との対話

子どもたちがまちについて知り、意見を出す機会を増やすことで、よりまちづくりを身近なものに。出された意見を実現できる仕組みを整える。

[内容]

- ・現在の市長と子どもたちが語る会のように、行政関係者だけでなくまちづくりの実践者たちとの対話ができる機会をつくる。

(例えば、まちづくり委員会など)

- ・子どもたちの質問や意見を受け、実践へとつなげていく流れを仕組みとして整える。
- ・対話の内容についても、より市民の目に触れる発信方法を検討し、実行する。

(5) 市民によるあま市のPR事業

あま市の魅力をもっと多くの市民に知ってもらい、自分たちで発信できる機会をつくる。市内だけでなく、市外にも広めることによって、あま市の知名度を高める。

[内容]

- ・ SNS、YouTubeなどでのあま市の魅力発信に市民が関わる事業を展開。

※参考 日間賀島で小学校6年制がTikTokで発信を行った事例など。

- ・ デザインや文章が洗練された情報は、発信力を高めると同時に、地域の印象自体も良いものに変える効果が見込まれる。ただ参加してもらうだけでなく、情報発信について、学べる機会などとセットでの実施も可能ではないか。

(6) 協働を統括する行政の体制整備

協働は、様々な分野の事業で実践できるものである。行政としても、単一の部署内だけでなく、市全体を俯瞰しながら協働を促進していく体制が欠かせない。協働事業を取りまとめる体制の整備を検討してもらいたい。（具体的などんな部署？）

おわりに ～まちづくり委員会より～

提言を踏まえ、

各委員がこれからまちにどう関わっていきたいか。

本提言書を踏まえてこれからまちにどう関わっていききたいか。

●● ●●委員長

【120文字】

.
.
.
.
.
.
.

●● ●●副委員長

【120文字】

.
.
.
.
.
.
.

●● ●●委員

【120文字】

.
.
.
.
.
.
.

●● ●●委員

【120文字】

.
.
.
.
.
.
.

本提言書を踏まえてこれからまちにどう関わっていききたいか。

●● ●●委員

【120文字】

.
.
.
.
.
.
.

●● ●●委員

【120文字】

.
.
.
.
.
.
.

●● ●●委員

【120文字】

.
.
.
.
.
.
.

●● ●●委員

【120文字】

.
.
.
.
.
.
.

本提言書を踏まえてこれからまちにどう関わっていききたいか。

●● ●●委員

【120文字】

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

●● ●●委員

【120文字】

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

●● ●●委員

【120文字】

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

●● ●●委員

【120文字】

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

本提言書を踏まえてこれからまちにどう関わっていききたいか。

●● ●●委員

【120文字】

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

●● ●●委員

【120文字】

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

●● ●●委員

【120文字】

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

●● ●●委員

【120文字】

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....